
私は勇者です。(大声で自信満々に)

miyajr

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私は勇者です。（大声で自信満々に）

【Zコード】

N9129Y

【作者名】

miyajr

【あらすじ】

魔法使いがいるなら勇者がいたつていいじゃない。

そんな日常。

(前書き)

「愚者……降臨……」

「……」

「」は次元世界の中心地ミッドチルダ。

数日前、ちょっととした次元震が起こり、空飛ぶベッドやらと少し騒がしかつたが、犯人も特定できずにしばらく平和な日々が続いている。

そして「」はとある住宅街。

「私が勇者だ！！」

と、誰かがいつものように叫んでいた。

この住宅街は、本当に平和だ。

2年ほど前の通称「ゆりかご」事件でも全く被害は無く、とても平和だった。

ああ、私の紹介がまだだつたな。私は管理局のただの警察官だ。この住宅街の交番で勤務している。

管理局も地上ではただの警察みたいなもんだ。

今日の朝も平和に過ごう」「私が勇者だーー」・・・ああ…そうだったこいつがいたな…

あいつは本当に近所迷惑を考えない奴だな…。

私は叫びがあつた所に直ぐに出動した。

¥ ¥ ¥ ¥ ¥ ¥ ¥ ¥

いや～今田も声がよく通るーー

空気も美味しい！！

輝ける太陽！！

勇者の朝にふさわしい朝だ！！

朝の散歩にきていたオバちゃんにも元気に挨拶をしよう！

「おせよ〜〜」
「おせよ〜〜」

「うわあ。うわあ。」

うん。今日はいつも増して気分が良い！！
我が愛刀のライトセイバーのライちゃん先より
一層輝いて見える！！

しばらくすると前方から物凄い勢いで迫つてくる人影が見える。

「あれせ…シノハチキ…」

- - - - -

暫くすると現場である公園へ到着した。

そして毎朝叫んでいた奴を見つけた。そして奴の方に全力疾走する。

そんな私に奴は

タックルをましてもやがった。

「見つけたぞブー」「ジユンちゃん…」イブゲラアツ…。

そして二つ目の様に氣絶。

……
……
……
……

「ジユンちゃん…」

私はジゅんちゃんへと飛び込んだ。

「ジュンちゃん会いたかったよー！ーーー？ジュンちゃん？」

べつめうじゅんちゅんは寝てしまつた様だ、

あの一瞬で寝てしまふなんて私に会えて会えて安心したのかな?

「しょうがないな～ジョンちゃんは。」

私はゆりべつジコンちゃんを起しにベンチに寝かせ、頭を膝にのせた。

平和だな。

「ふあ
... Z
Z Z
...」

勇者は寝るのも速かつた。

そして私は何故か顔面と後頭部に柔らかさを感じ目を覚ました。

何故か膝枕をされていて、そしてさら^{ヒテ}に田の前にTAWAWAに育つた二つのアレ、

なんとか叫びを抑えた自分を褒めてあげたい。

なんとかするりと抜け出して奴の隣に座った。

勇者…か。

これがまだガキとかだったら笑えるのにな。

もうこいつも15歳、いい加減卒業したらと思つ。
職場でもそれが原因でこんな住宅街の交番に流されてきたつてい
うのに。

こいつの名前は明日香＝ブレイブ
名前からもつ勇者っぽい。

実は俺と同じ管理局員。しかも、魔力はS級でエース級。

しかも美人。

なのになんでこんな住宅街のか交番に勤務してるのかといつと…。

それは、やっぱこいつが勇者だったからだ。

こじは実質魔法使いが支配する国だ。

そんな所にいきなり自分を勇者と疑わないような奴が入れば異質と見られるだろ？ それだけならまだ良かつた。

こいつはかなりカンが鋭かつた。

勇者のカンなのは知らないが、今では表向きに報じられている管理局の闇の部分、それに関わってる局員にほとんど気づいていたらしい。

そんな彼女をこのままほっておけるはずが無く、彼女はここに流された。

そしてさらにその時彼女が交換条件として俺を連れて行くなんて事を言い出した。

たつた一人の局員で彼女を動かせるなら彼らも願つたり叶つたりだらう。

よつて私は彼女と共にここに勤務する様になつた。

普通勇者とセツトは魔法使いが定石だつてのに…。

こいつにはホント迷惑をかけられてばっかである。

「…やべい…」

ん。
起きたか？

「あーー！ ジュンちゃん起きたんだねーー！ 良かつたーー！」

だけど、いつの笑顔を見るとなんか憎めない。

まあ、こんな生活も悪くは無いかな?と思つて今日この頃です。

「それにしてもジョンちゃん、走りながら寝ちゃうなんて本当にね
ぼすけさんだな～」

「お前のせいだろー！ー！」

「うん。私に会えて安心したんでしょーー！」

……こいつ本当はただのバカなんじゃないか？

(後書き)

騙されたなーーー！

勇者は女だったのさーーー！

今回は結構スラスラいけました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9129y/>

私は勇者です。(大声で自信満々に)

2011年11月27日11時55分発行